

# ホワイト ペーパー

---

## HP P9500 XP ディスクストレージシステム

ミッションクリティカルアプリケーションのための  
Tier 1 データプラットフォーム

Mark Peters 著

2011年4月

---

この ESG ホワイトペーパーは HP 社の委託を受けて作成され、  
ESG の許諾の下で配布されるものです。

© 2011, Enterprise Strategy Group, Inc. All Rights Reserved

## 目次

ミッションクリティカルと仮想化 .....	3
「ミッションクリティカルなストレージ」とは .....	3
仮想化が進行するIT環境におけるストレージの課題 .....	5
HP P9500: ミッションクリティカルなTier 1 ストレージプラットフォーム .....	6
まとめ .....	8

すべての商標名は、それぞれの所有者に帰属します。この資料に記載されている情報は、The Enterprise Strategy Group (ESG) が信頼できると判断した情報源から取得したものです。ESG がこれを保証するものではありません。この資料には ESG の見解が含まれる場合があり、その見解は随時変更される可能性があります。この資料の著作権は、The Enterprise Strategy Group, Inc. に帰属します。Enterprise Strategy Group, Inc. の明示的な承諾を得ることなく、この資料の一部またはすべてを、ハードコピー、電子的手段、またはその他の方法で、受領を承認されていない第三者向けに複製または再配布する行為は米国著作権法に違反し、民事訴訟および該当する場合は刑事訴訟の対象となります。ご質問がございましたら、ESG Client Relations (電話: 508-482-0188) までお問い合わせください。

## ミッションクリティカルと仮想化

「Tier 1」や「ミッションクリティカル」といった用語は安易に使用されがちです。実際のところ、ITやストレージに関する文献ではこれらの用語を頻繁に目にします。しかしながら、時には、とりわけこのカテゴリに属するように思われる製品を評価する際は、「Tier 1」ストレージや「ミッションクリティカル」アプリケーションが意味するところを一度立ち止まって考えることも必要です。すなわちHP P9500<sup>1</sup>のような製品の検証にあたっては、基準に沿って製品を評価するだけでなく、実際の利用環境に照らして製品を評価することにより、その製品が現実のIT/ビジネス課題の解決にどのように貢献できるかを検証することが欠かせません。既知の重要な課題を実践的かつ包括的に解決できるシステムは現実的で有益なビジネスツールと言えますが、そうでなければ単なる高価なディスクに過ぎません。本ホワイトペーパーで取り上げるP9500は、機能性、信頼性、必要な価値の提供といった観点から判断して疑いなく業界トップクラスのストレージデバイスの1つですが、どのような組織にどのような理由で適しているのかを理解することも大切です。

### 「ミッションクリティカルなストレージ」とは

ミッションクリティカルなアプリケーションとは、何よりもまず、それなしにはビジネスを適切に遂行できず、組織の商業的健全性と密接かつ直接的に結び付いているアプリケーションを指します。この種のアプリケーションの性質は、そのアプリケーションが支えるビジネスのタイプによって変化しますが（たとえば、ある組織にとって電子メールは単に便利なツールに過ぎませんが、別の組織にとってはビジネスに不可欠なツールです）、いずれの場合にもこれらのアプリケーションについては、技術（IT）的な観点に加えて財務（ビジネス）的な観点からも評価が下されます。別の方向から捉えたと、ミッションクリティカルなデータとは、主要なビジネスアプリケーション（オンライントランザクション処理システム、収益性の高いプロセス、顧客が直接利用するプロセスなど）で使用されるデータと位置付けることができます。ミッションクリティカルなアプリケーションへのアクセスが失われると、収益力の急落、顧客の潜在的逸失、さらにはビジネスそのものの消失といった事態がごく短時間で生じかねません。一般的に、この種のミッションクリティカルなアプリケーションを支えるデータは、非常に高性能で可用性に優れた（したがって非常に高価な）エンタープライズクラスのディスクアレイ上に存在しており、さまざまなレベルの RAID 保護や複製を通じて、地理的に異なるロケーションに複数のコピーが保持されています。これらのシステムはギガバイト当たりのコストが非常に高くなりますが、性能や可用性が劣るシステムでは顧客満足度、収益力、さらには企業の評判や競争力にも直接的な悪影響が生じるため、このコストは正当化されています。

言うまでもなく、ミッションクリティカルなアプリケーションを支えるためには、最上位のスケラブルなパフォーマンスと信頼性に加え、動的なビジネス環境におけるニーズの変化に適応可能なアジリティ（俊敏性）も備えた、ミッションクリティカルなインフラストラクチャを欠かすことはできません。市場の変化、新製品の登場、法規制の強化、競争の激化など、常に変化する環境への迅速な対応はビジネスに不可欠な能力ですが、それと同時に、これらの課題に「費用効率よく」対処することが重要です。データセンターや IT 環境で仮想化が急速に普及した背景に、これらのニーズがあることは疑いありません。データやニーズが複合的に上昇する大規模かつ複雑な組織において、これらの要件をすべて満たすとともに、多くの組織が求めている真の「IT-as-a-service（サービスとしての IT）」を実現するためには、何らかのレベルの仮想化が不可欠です。x86 サーバー上でのサーバー仮想化イノベーションに伴い仮想化の普及が進むなか、時間や場所に制約されない柔軟かつオンデマンドの可用性が求められるミッションクリティカルなアプリケーションを支えるために、より広範囲にわたる仮想化、すなわちネットワーク帯域幅やストレージの仮想化が必須の課題となっています。

従来の硬直化したストレージアーキテクチャーでは、ミッションクリティカルなアプリケーションの要求に応じて、これらの課題をすべて解決するのが困難なことは明白であり、ミッションクリティカルな業務を支えるために、次のような特徴を備えたリソースプールを構築可能なストレージが必要とされています。

- **柔軟性:** 経済情勢の変化（景気の上昇や下降）に伴う予測困難な課題やチャンスが企業やデータセンターに継続的に影響を及ぼすなか、リソースを柔軟に変更または移動することで稼働率を最適化
- **拡張性:** 何らかの「事象」（合併・買収に伴うデータの急増など）が発生したときに、最小限のプランニングでビジネスを停止することなく容量をスムーズに拡張
- **エネルギー効率性:** 処理性能や可用性に影響を与えることなくエネルギーコストを最小限に抑制。（地域またはデータセンター内での）電力供給の制約に伴い、「少ない労力で大きな成果を達成」という従来からの目標達成はより一層困難になりつつあります

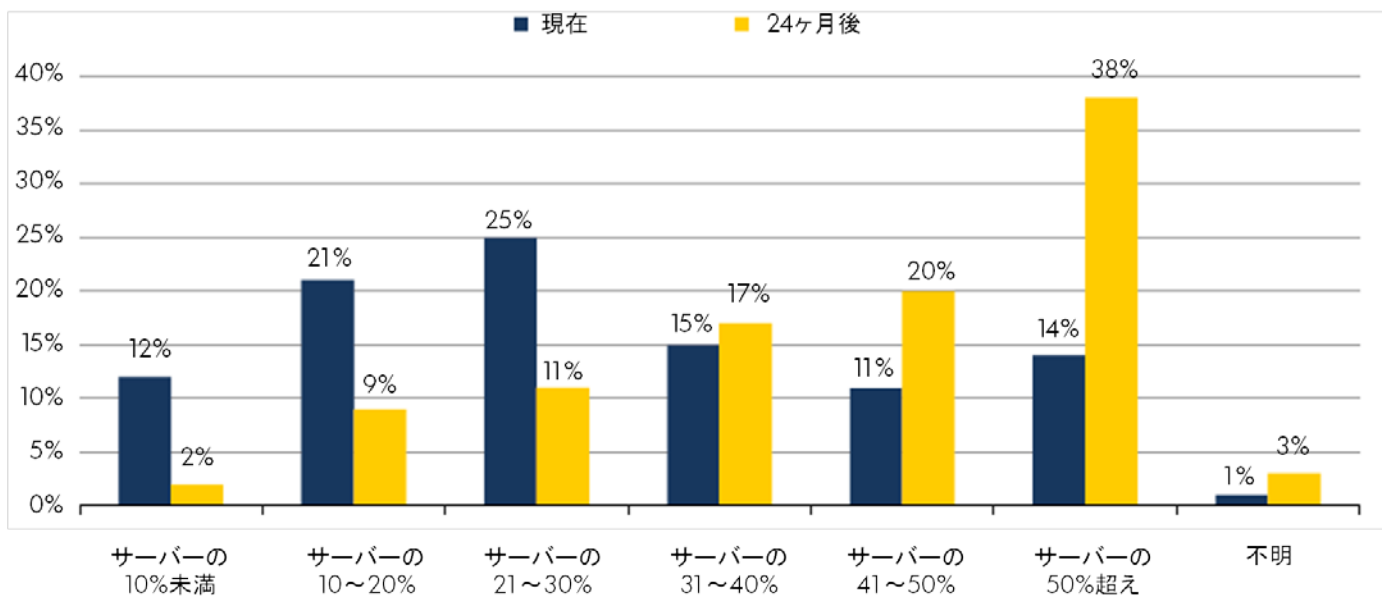
<sup>1</sup> 正式な製品名は「HP P9500 XP ディスクストレージシステム」ですが、簡潔性および読みやすさに配慮して本レポートでは省略名を使用しています。

- **高品質サービス:** 適切なアプリケーションに適切なリソースを適切なタイミングで提供
- **自動化されたタスク管理:** 迅速化、効率化、エラーの抑制

さらに、ITの柔軟性を向上しビジネスを最適化するためには、これらのリソースプールを仮想化し、全体的な仮想化サーバー環境に統合する必要があります。これにより、サーバー仮想化の進行がIT組織にもたらすストレージ固有の課題へ対処できるようになります。大多数の組織でサーバーの仮想化が最優先のIT課題に位置付けられるなか（またミッションクリティカルなアプリケーションのニーズに応じてHP P9500が配備され、サーバーの仮想化に伴うさまざまな課題を解決しているなか）で、一見無関係に思える2つの分野、すなわちミッションクリティカルでモノリシックなストレージと最先端の仮想化テクノロジーの融合が進んでいます。ESGの調査はこの点を裏付けるもので、サーバーインフラストラクチャをまだ仮想化していない組織は仮想化の導入を望んでおり、一方、仮想化を完了している組織は「常時稼働」サービスを効率的に維持するために仮想化戦略のさらなる拡大を検討しています。図1にまとめた調査結果には、このような傾向が明確に表れており、HP P9500のような製品にとって市場シェアを拡大するチャンスが大きいことを示しています<sup>2</sup>。

図1. 仮想化が完了しているx86サーバーの割合

あなたの組織内の仮想化が可能なx86サーバーのうち、現時点でおよそ何割程度のシステムで仮想化が完了していますか。また、今後24か月でその割合はどのように変化すると予想されますか（回答者の割合、N=463）。



出典: Enterprise Strategy Group、2010年

完全に仮想化されたインフラストラクチャは稼働率の向上を通じて、リソースの性能および可用性の強化、サーバー/ストレージのスプロール（無秩序な拡大）の減少、管理の統合、および上昇を続けるコストの抑制に貢献します。さらに仮想化を導入することで、これまで浪費されてきたリソース（アプリケーション固有のサーバーと専用のストレージリソースなど）もより有効に活用できます。仮想化がもたらす相対的価値は個々の組織によって異なりますが、絶対的価値は組織の規模が拡大するほど論理的かつ必然的に上昇していきます。HP P9500の主なターゲットはこのような大規模組織であり、当然のことながら、大量のデータを保有している組織ほど、サーバーの仮想化に加えてストレージの仮想化にも力を入れる傾向が強く見られます。この点は表1に示すESGの調査からも明らかであり、IT「ショップ」の規模が大きく保有するデータ量が多い組織ほど、ストレージ仮想化への投資に力を入れています。実際のところ100TB以上のデータを保有するエンタープライズユーザーは、平均を上回るペースでストレージ仮想化への投資を拡大しており、次の18か月で42%以上の増加が予想されています<sup>3</sup>。

<sup>2</sup> 出典: ESG 調査レポート「The Evolution of Server Virtualization」(2010年11月)

<sup>3</sup> 出典: ESG 調査レポート「2011 IT Spending Intentions Survey」(2011年1月)

表 1. ストレージ仮想化に対する投資の傾向 (ユーザープロファイル別)

ユーザーサンプル	2011~2012年における ストレージ仮想化に対する投資の割合
すべてのユーザー	21%
エンタープライズユーザー	25%
100TB以上のデータを保有するユーザー	30%

出典: Enterprise Strategy Group、2011年

ストレージの仮想化がもたらすメリットは、次の2つのカテゴリに大きく分類されます。

- **運用面** – スペースの有効活用や処理性能の強化によるビジネス成果の向上
- **財務面** – 資産寿命の長期化、資産の購入抑制と有効活用、ソフトウェアライセンスの拡散防止などによる CAPEX (設備投資) および OPEX (運営費) の削減

繰り返しになりますが、ストレージの仮想化が真に有益なものであるためには、ビジネス成果の向上に直結する IT 価値を提供できなければなりません。ESG の調査によると、一般的にストレージの仮想化によるメリットが大きい分野は、IT 投資の決定にあたって組織が重視しているイニシアチブと一致しています。ESG の調査は、コストの削減とビジネスプロセスの改善が組織にとって最優先課題であることを示しており、これらの目標達成に P9500 のようなシステムは大きく貢献することが可能です。

## 仮想化が進行するIT環境におけるストレージの課題

サーバーの仮想化は必然的な変化であり、次に検証すべきはその進展を妨げている分野です。ストレージは (少なくとも従来のストレージは)、IT の成功や発展を阻害または遅延させる大きな要因となってきました。これらの課題に対処するための有効な手段として、ストレージの仮想化が注目されています。

本質的にストレージの仮想化とは、アプリケーション、特定のストレージタイプ、さらにはディスク上の物理的ロケーション間の直接的な連結を解消することにより、「運用の流動性」と「使用効率」を向上するテクノロジーに他なりません。仮想化を通じてストレージの柔軟性が飛躍的に改善することで、管理者は急激に複雑化する従来型ストレージの管理から解放されて、アプリケーション、応答性、可用性、ビジネス価値の向上に再び集中することが可能になります。実際のところ多くの先進的なアーキテクチャーでは、アレイ全体にわたるデータのワイドストライピング、クラスタリング、高度な複製とデータ移動などの技法を駆使して、モジュール型のスケールアウトアレイ上に仮想化機能を実装しています。

繰り返しになりますが、ストレージの仮想化は決して過剰なテクノロジーではなく、IT が確かなビジネス価値を提供し、主要なビジネス課題を解決するうえで欠かせない存在となるために絶対的に必要な要素です。多くの組織が直面している主な IT/ストレージ問題は、以下のように要約されます。

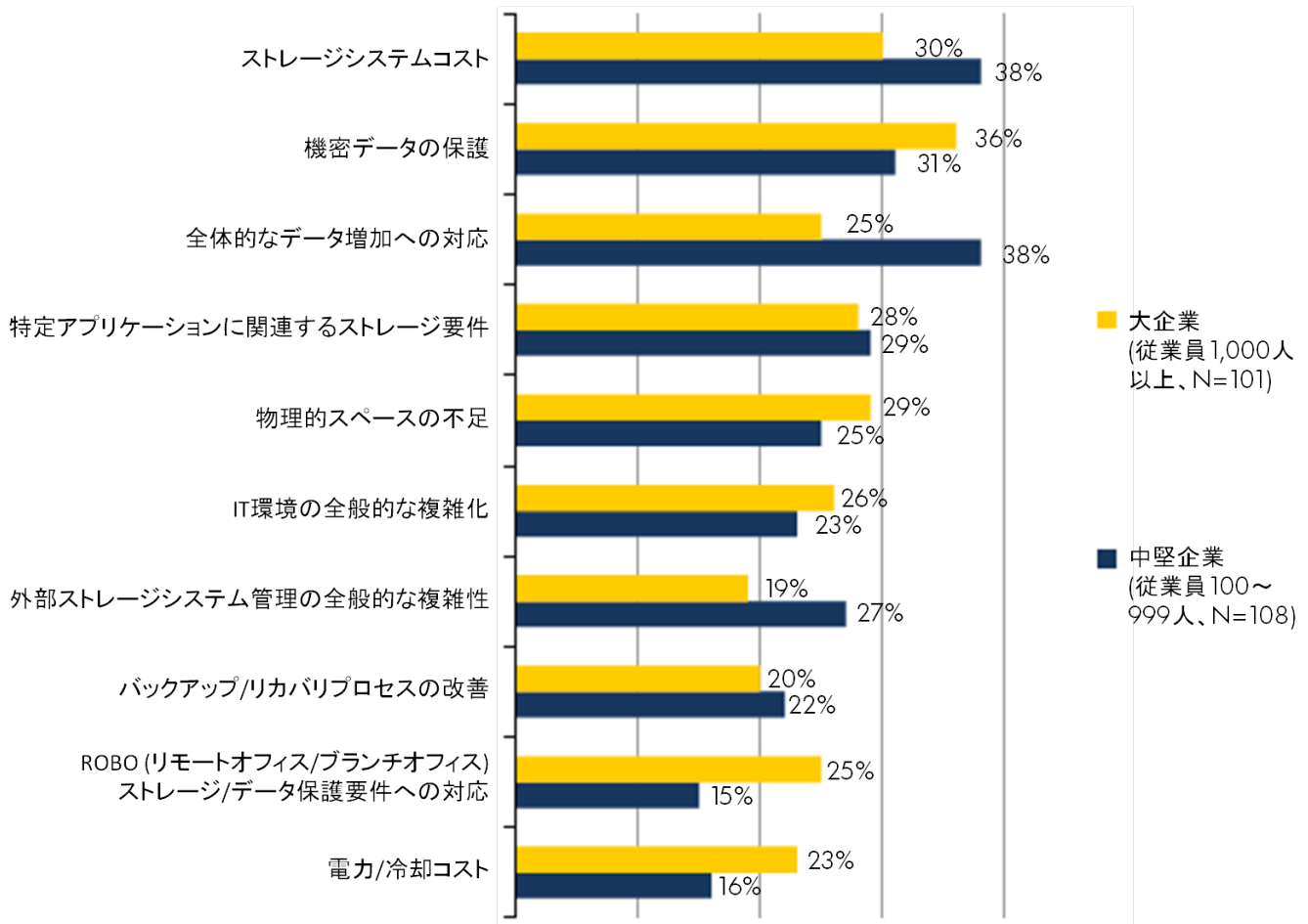
- 容量の増大と非効率的なスペース利用
- 仮想マシンの「スプロール」
- 予算が制約されるなかでの設備投資と運営費の増大
- 不十分な拡張性

これらは単に便利な「マーケティング用フレーズ」ではなく、多くの組織が抱えている現実的な課題です。図 24は、ストレージ環境における最大の課題をITユーザーに質問した結果をまとめたものです。HP P9500 のようなツールは、現実的にはミッションクリティカルな役割に加えて組織全体にわたる「通常の」ニーズへの対応も期待されているため、この調査は大企業および中堅企業の両方を対象としています。この「用途の多様性」は、HP P9500 が持つ強みの1つです。大企業と中堅企業ではいくつかの点で差異が見られますが、同時に多くの共通点も存在しており、いずれのケースでも成長、セキュリティ、管理、物理的スペース、複雑性、そして言うまでもなくコストが主要な課題となっています。

<sup>4</sup> 出典: ESG 調査レポート「[2011 IT Spending Intentions Survey](#)」(2011年1月)

図 2. ストレージ環境における課題トップ10

全般的に見て、あなたの組織のストレージ環境における最大の課題は何ですか。(回答者の割合)



出典: Enterprise Strategy Group、2011年

ストレージの仮想化はここに挙げたような主要な IT 課題の多くを同時に解決、あるいは少なくとも解決を支援することが可能な手段 (ツール) です。すでに見てきたように、ストレージの仮想化はコストの削減とビジネスプロセスの改善という最優先のビジネスイニシアチブに大きく貢献することが可能です。実際のところ、予算が制約されるなかで成長と複雑化への対応に苦戦している今日の IT 環境において、ストレージの仮想化による「簡潔性」と「適合性」の融合は、数少ない現実的な解決策を提供します。

前述のとおり、ストレージの仮想化とサーバーの仮想化は、相互に密接に関係するテクノロジーです。実際のところ、サーバー仮想化に関する最近の ESG 調査によると、サーバー仮想化をより広範囲にわたって実現するための要件トップ 5 にストレージの仮想化が含まれている一方で、サーバー仮想化に伴う最大の課題として新規ストレージの調達コストが挙げられています。以下では、ミッションクリティカルな環境におけるサーバー仮想化を費用効率よく支えるべく HP が提供する最新の HP P9500 について検証していきます。

## HP P9500: ミッションクリティカルな Tier 1 ストレージプラットフォーム

以下では、市場の動向、ユーザーニーズ、および真にミッションクリティカルなストレージシステムが提供可能な価値の観点から、HP P9500 ディスクストレージシステムについて検証しています。本ホワイトペーパーは、製品パンフレットの代替物や複製を意図したものではありませんが、まず初めに製品の主要なポイントを簡単に確認するために、この製品の特徴や主な機能についての HP 自身による簡潔な要約を引用しておきます。

HP P9500 XP ディスクアレイは、大規模障害が発生した場合であっても、継続的なデータアクセスを求められるミッションクリティカルなコンバージド・インフラストラクチャに適した堅牢なストレージです。一切のダウンタイムが許容されない環境向けに設計された P9500 は、高性能でオンラインスケラブルな完全冗長ハードウェアプラットフォーム

ムと、クラスタリングソリューションに統合された独自のデータ複製機能を融合することで、真のビジネス継続性の実現に貢献します。HP P9000 ソフトウェアファミリは、クリティカルなデータ管理を合理化するための各種機能で構成されています。シンプロビジョニング機能はストレージ稼働率を向上し、仮想化は多種多様なシステムの管理を簡素化します。また Smart Tiers はストレージ性能の向上とコストの抑制に貢献し、Application Performance Extender はリソースを有効活用するためのエンドツーエンドの QoS (サービス品質) 機能を提供します。さらにオープンシステム、メインフレーム、および HP NonStop アプリケーションのすべてを単一の P9500 上で管理することで、真の統合が実現されます<sup>5</sup>。

以下では、特に注目すべき P9500 の特徴をより詳しく解説していきます。

定評あるブランドの後継、実利的、および保護: HP はこの提携関係を積極的にアピールしていますが (何といっても、日立は「ハイエンド」の堅牢な「シックスナイン (99.9999%)」の信頼性と先進的機能が名高い企業です)、それと同時に、日立とのパートナーシップは日立の子会社で HP の競合企業でもある日立データシステムズ (HDS) にまで及ぶものではなく、HDS は HP が開発した知的財産やソリューションに直接アクセスできないことも明確に指摘しています。その一方で、HP はこの分野に関して日立が提供しているあらゆるハードウェアおよびソフトウェアを自由に選択および入手でき、その選択を単独で行うことが可能です。HP と日立は相互のサイトに自社エンジニアを常駐させており、設計段階から緊密に連携することで、フェイルオーバー、クラスタリングと動的なサブ LUN 階層化、Smart Tiers、およびその他のさまざまな主要な機能を共同開発しています。

データ保護に関しては、データの有効期間中には SSD によるキャッシュのバックアップやシステムによる継続的なセルフチェックなど、廃棄時には確実かつ完全な消去などの入念な対策が施されています。可用性についても、P9500 は HP の従来製品と同様にマイクロコードやファームウェアの更新中もサーバーの運用を阻害することがなく、さらに「保護」スイートには利用しやすい保存データ用暗号化機能も組み込まれています。

**広がり」と奥行き:** P9500 は、ミッションクリティカルなストレージシステムであると同時に、組織内に存在するあらゆるデータ (オープンシステムとメインフレーム、ブロック、ファイル、オブジェクトベースのコンテンツなど) のための一元的な仮想化プラットフォームとして、仮想化されたマルチベンダー/マルチプラットフォームのインフラストラクチャをサポートするよう設計されています。システムは (標準の 19 インチラックを使用する) 小規模構成で導入し、共通リソースプールの管理能力を維持したまま、成長に応じて拡張可能です。P9500 はニーズに応じて容量/接続コンポーネント (キャッシュ、プロセッサ、接続、ディスクなど) を動的かつシームレスに追加することによりワークロードパフォーマンスを最適化でき、拡張にあたってコントローラー一式を新規に購入するような必要はありません。また SAS 2.5 インチディスクドライブフォームファクターのみを使用する高密度ストレージ設計により、消費電力を抑制しつつ、4 平方メートル内に 2 ペタバイト超のデータを、単一ラック内に 256TB のデータを格納可能です。

P9500 は 2 つの手法で拡張可能です。まず第 1 は、複数のユニットを結合して単一の論理システムを構築する方法で、システムを停止することなく、成長に応じて容量、処理性能、および接続性を拡張できます。サーバーは共通のストレージプールを通じてリソースにアクセスでき、さらに P9500 はサーバー間でストレージリソースを動的にパーティショニングする機能を備えており、セキュアなマルチテナント環境や QoS (サービス品質) の実現にも貢献します。2 番目は外部ストレージを使用する方法です。P9500 の機能は外部のマルチベンダー異機種混在ストレージにまで拡張可能で、これらのストレージを全体的な仮想プールの一部として管理し、P9500 の管理下にあるすべてのデータの移動、階層化、および管理に使用できます (バックアップサービス、複製、スナップショット、およびその他の高度な機能を含む)。この方法により、古いシステムを長期にわたって有効活用することで (災害対策用の複製に使用するなど)、これらのシステムの ROI を向上できます。共通管理フレームワークの導入は OPEX の削減に役立つだけでなく、可能な場合には低コストのストレージ階層を使用することで CAPEX も抑制されます。

さらに P9500 は、HP の「最新かつ最大」の NonStop プラットフォーム上で検証および認定された唯一のアレイであり、メインフレームや OpenVMS に加えて、Unix、Windows、Linux などの一般的な運用環境も同時にサポート可能であることが確認されています。また VAAI サポートをはじめとして VMware と緊密に統合されているため、特定の仮想マシン機能をサーバーからアレイにオフロードすることも可能です。

<sup>5</sup> www.hp.com から引用 (2011 年 3 月 20 日)

P9500 は、厳しい要求を課せられる環境での使用を意図して設計されており、HP ではプラットフォームが備える強固なハードウェア復旧性を Cluster Extension (CLX) テクノロジーで補完しています。HP CLX は、完全に統合、サポート、および自動化されたフェイルオーバー/フェイルバック機能を同期または非同期で提供することで、システムまたはサイトのダウンタイムからビジネスを包括的に保護します。このような運用は個別のサーバー環境であっても容易ではありませんが、仮想化された環境では問題が劇的に複雑化します。HP ではあらゆる重要な要素を統合することで、安心感の向上は言うまでもなく、運用の効率性や柔軟性を大幅に改善しています。このクラスタリング機能は外部ストレージにまで拡大可能なため、既存のシステムや新規に購入するシステムもより有効に活用できます。

**経済効率:** ミッションクリティカルであるか否かにかかわらず、今日のストレージシステムにとって、経済的価値の提供は欠かせない要件の 1 つです。P9500 の消費電力は XP の約半分に抑制されており、この省電力化には物理的側面とシステムの側面にわたる複数の手法が活用されています。物理的な対策の例として、P9500 は標準的なデータセンターのホット/コールドアイル設計におけるエネルギー効率に配慮して前方から後方へのエアフローを実現しているほか、省電力 X86 プロセッサを採用し、内部ドライブ接続にファイバーチャネルではなく SAS を使用することで、コストと複雑性を軽減しつつ密度と効率性を向上しています。システムの対策としては、シンプロビジョニングや Smart Tiers などの技法を通じてストレージスペースの孤立を防ぎ、未使用のストレージを減少することで、電力、冷却、およびスペースの無駄を解消しています。さらに Smart Tiers と外部ストレージを組み合わせることで、これらの効率性を他のアレイにまで拡大することも可能です。

さらに HP では、費用効率の向上に貢献する新たな手段として、「メーターベースの期限付きライセンス」(短期間の従量制ソフトウェアライセンス) も提供開始しています。

**統合された管理:** 高度なストレージシステムに標準搭載されつつあるスナップ、シンプロビジョニング、動的階層化、各種の複製オプションなどの機能に加えて、P9500 にはエンドツーエンドの QoS マネージャーである Application Performance Extender (APEX) も搭載されています。HP ラボにより開発された APEX は、一般的には両立が難しいと考えられている次の 2 つの重要な成果の達成を可能にします。

- 優先課題かプロジェクト専用ディスクアレイの購入かの選択を迫られることなく、ミッションクリティカルなアプリケーションにストレージを割り当てられます。言い換えると、必要に応じて処理性能を「調整」することにより、ミッションクリティカルなワークロードを保護できます。
- リソースが引き続き共有されることで、共有による経済効率を保持できます。統合性が維持されることで、既存リソースの稼働率 (ROI) を最適化して新たな製品の購入時期を遅らせる、さらには回避することも可能になります。

管理機能も継続的に強化されており、最近の機能拡張として新たな管理アプローチを提供する組み込みの SMI-S に加えて VMware VAAI サポートも追加されています。VMware VAAI は、ESX ホストからストレージアレイに処理機能をオフロードするための VMware コマンドを許可することにより、VMware の可用性と処理性能を向上します。またこの機能をサポートする HP Insight Control for VMware Vcenter プラグインも組み込まれています。

## まとめ

一般的に、結論は曖昧にしておく方が安全なケースが少なくありませんが、HP P9500 に関してそのような配慮は必要ありません。HP P9500 は、確かな伝統と高度な機能的特性を備えたミッションクリティカルな (そして、それ以上の) 卓越したストレージシステムです。概説したとおり、これらの特性は「あれば便利」な程度の機能ではなく、真の市場ニーズを解決するうえで欠かせない機能であり、IT とビジネスの両方の観点から組織の目標達成に貢献します。これらの点から判断して、P9500 は単なるテクノロジーツールではなく、優れたビジネスツールと捉える方が適切です。

製品自体の優秀性に加えて、HP が提供している包括的なメリットについても注目が必要です。HP では IT に対する統合されたアプローチとして「コンバージド・インフラストラクチャ」アーキテクチャーという強力なコミットメントを掲げており、その推進に力を入れています。さらに、今日では多くの組織が利用ベンダーの絞り込みを望んでいますが、その包括性において HP に匹敵する企業はほとんどありません。ミッションクリティカルなストレージシステムを求めている組織にとって、HP の規模と信頼性に支えられ、日立との提携により開発された強力な P9500 が、検討に値する製品であることは疑いありません。さらに HP によるストレージ企業の積極的買収から判断して (直近の 3PAR に加えて LeftHand や Ibrix など)、HP が本製品だけに限らず、有望な市場分野としてストレージ全般に力を入れていることは明白です。



厳しい要求が課せられる一方でリソースが制約されがちな今日の環境において、経営幹部の期待に沿った (または期待を上回る) 成果を達成するのは IT 組織にとって容易なことではありません。問題を一層難しくしているのが情勢の急速な変化であり、制約された不十分なツールでは、成長を阻害する恐れがあります (ストレージも例外ではありません)。変化に俊敏に適応し、他社に先駆けてチャンスをつかむためには、HP P9500 のようなツールを活用して、ビジネスアジリティに優れたフレキシブルなインフラストラクチャを構築する必要があります。言い換えると P9500 はビジネス向け製品に求められるあらゆる要素を備えており、アジリティに加えて、確かな信頼性、処理性能、データ保護機能を提供することで、真にミッションクリティカルなアプリケーション環境を卓越した費用効率で支えることが可能です。経済効果を測るうえで重要なのは、製品の価格ではなく提供される価値の大きさであり、この点に関して P9500 は強力なビジネス資産となりうる確かな IT ツールであると結論付けられます。

